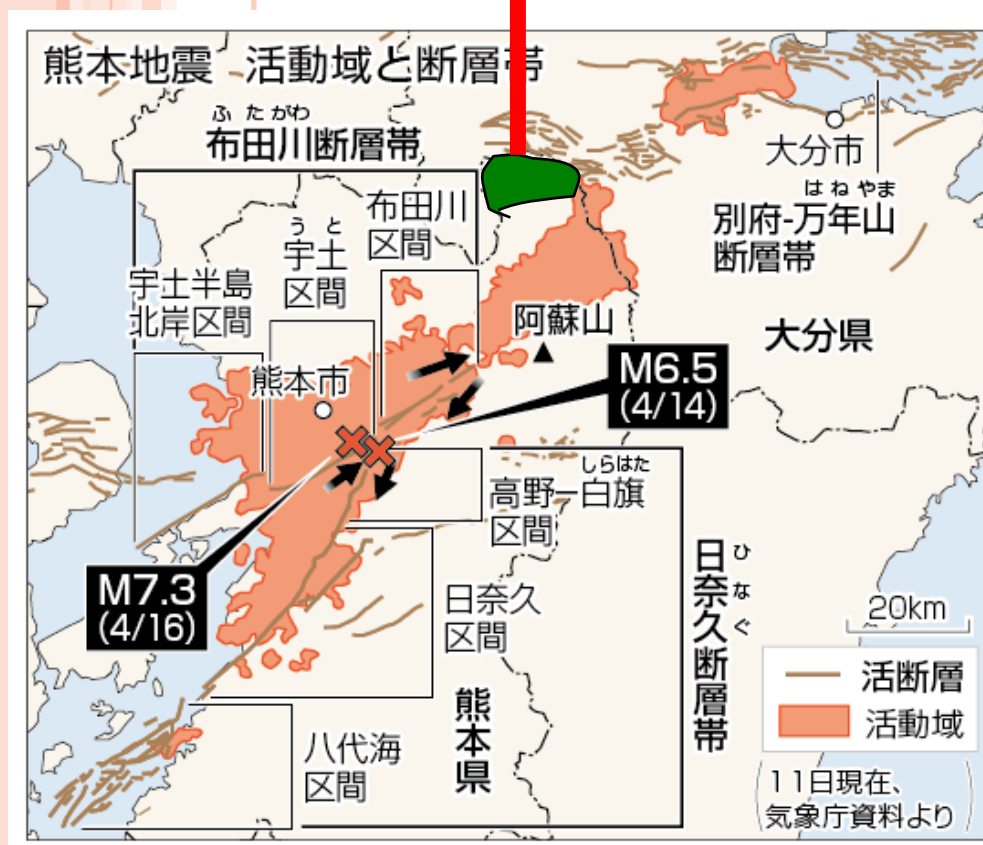


熊本地震備忘録

【小国町福祉課・地域包括支援センター】

小国町では



1 前震

- ・発生日時:平成28年4月14日 21:26
- ・震度:震度3
(県内最大は益城町の震度7)
- ・震源の深さ:11km
- ・マグニチュード:6.5

2 本震

- ・発生日時:平成28年4月16日 01:25
- ・震度:震度5強
(県内最大は西原村及び益城町の震度7)
- ・震源の深さ:12km
- ・マグニチュード:7.3

平成28年7月25日

※本資料の数値等は全て現時点のもの

この他、小国町では震度4を3回観測

■ 小国町の直接的な被害概要

● 人的被害(町内)

・ 重傷者 1名 ・ 軽傷者 4名

● 住家被害状況

・ 大規模半壊 1件 ・ 一部損壊 89件
(罹災証明書発行ベース)

※その他被災証明書発行件数 56件

● 施設等の被害状況

公共土木施設	}	133件 5.5億円
農林畜産施設 等		
上下水道		

※公共土木施設: 道路、橋梁、河川等

農林畜産施設: 農地・農業用施設、林道等



■ 小国町役場の対応

(時系列)

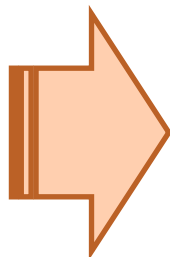
日付	時刻	対応状況
4月16日	01:25	災害対策本部設置(本震発生同時刻)
〃	02:00	第1回災害対策本部会議開催
〃	02:19	各大字に指定避難所開設(6箇所)
〃	06:00	第2回災害対策本部会議開催
〃	07:00	職員による町内パトロール実施
〃	09:05	自衛隊に派遣要請(給水派遣)
〃	16:00	町内全域に避難準備情報発令
〃	17:00	町内全域に避難勧告発令
4月17日	06:43	避難勧告解除
4月18日	17:00	福祉避難所開設(おぐに老人保健施設)
)
5月23日	08:45	第36回災害対策本部会議開催
〃	09:00	災害対策本部解散



■ 災害対策本部会議の様相

■ 小国町役場福祉課の対応

被害状況の把握と対応



【地震発災直後】

- 職員安否確認・参集(登庁時に周辺状況を確認しながら)
- 福祉施設・医療機関の被害状況確認
- 避難所運営支援(役場全体で対応)
- 保健師を避難所に配置
- 避難者への炊き出しの手配

【4月16日明るくなってから以降】

- 避難行動要支援者安否確認(民生委員へ依頼)
 - ※4月14日も実施(延べ3回依頼)
- 人工透析患者受け入れ先を確保
- 福祉施設での不足物資の把握と手配

補足：今回の震災では町内のインフラ等(道路、電気、水道、施設)に大きな被害がなかった。

■ 避難所の状況

4月16日から5月21日まで指定避難所として以下の避難所を開設した。
(小国老健施設は4月18日から5月12日まで)



施設名称	避難人数(延べ)
小国ドーム	2,944名
旧万成小学校図書室	189名
旧北里小学校クラブハウス	328名
西里多目的集会所	42名
旧下城小学校コミュニティルーム	569名
蓬萊保育園	280名
小国老健施設 (福祉避難所)	48名
合 計	4,400名

■ 避難所運営

期間 項目	初 動 (発災当日) 4月16日	応急期 (3日目程度まで) 4月17日～19日	復旧期 (1週間程度まで) ～4月23日
基幹業務	<ul style="list-style-type: none"> ●職員配置 ●避難所の被害状況確認 ●避難所開設準備 (開錠、マット、受付) ●備蓄物資の配布 (毛布) ●情報通信設備の確保 (ラジオ) ●炊き出し (おにぎり) ●ごみ集積所の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所開設状況の周知 ●避難所区画割の見直し (通路の確保) ●救援物資搬入 (水、食料品、毛布他) ●Wi-Fi環境の整備 ●情報通信設備の確保 (テレビ) ●救援物資の食料品、水の配布 ●避難者の安否照会対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所清掃、消毒
保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ●保健師配置 ●感染症への対応 (インフルエンザ患者の隔離) ●手指消毒液の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●公立病院医師の巡回 ●DMATの支援 ●感染症予防 (マスク配布) ●エコノミークラス症候群防止の周知 ●トイレの衛生管理と汚物回収 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健師定期的な巡回 ●DPATの支援 ●熱中症予防の周知
より良い環境	<ul style="list-style-type: none"> ●寒さ対策 (ストーブ) 	<ul style="list-style-type: none"> ●寒さ対策 (カイロ) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアによるアロママッサージ ●警察の避難所巡回
要配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●配慮が必要な人の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉避難所へ移動 ●医療機関へ移動 	

■ 避難所運営の課題

対応できなかった（今回の課題）項目	発災時季が違えば必要な項目
<ul style="list-style-type: none">●避難住民による運営委員会の設置●住民相談コーナーの設置●授乳室/スペースの確保●簡易ベットの設置●洗濯場（洗濯機・乾燥機）の確保●洗濯干し場の確保●見やすい掲示場（インフォメーションコーナー）●シャワーや風呂の確保●感染症患者専用トイレ●記録（写真）	<ul style="list-style-type: none">●ハエ、蚊などの害虫対策●体や季節に合わせた衣類の確保●暑さ、寒さ対策

■ 福祉避難所開設

避難者

避難所での避難生活が困難な人
対象は高齢者、障害のある人、妊産婦など
必要性の高い人から優先的に

避難

福祉避難所
(2次的避難所)

受け入れ依頼

保健師等が巡回して状況を把握

小国町

受け入れ先の検討

- ・医療機関
- ・福祉介護施設
- ・福祉避難所
- ・その他



■ その他記録写真

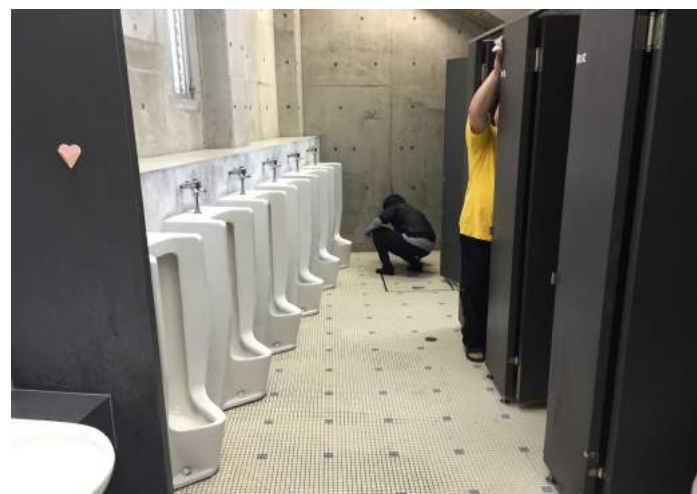
頑張ろう!
熊本!



■ 避難所へ救援物資搬入状況



■ 避難所清掃状況



平成28年熊本地震

小国公立病院備忘録

小国公立病院



小国公立病院

地震直後の公立病院の動き

○4/15（金）1回目の地震（前震）後、通常通りの診療

○4/16（土）2回目の地震（本震）後、36件の時間外外来に対応

停電は一時的。ライフラインは保たれていた。医師が糸山しかおらず、梅田先生、大村先生が外来援助。辻先生もご連絡頂いた。ヘリの依頼、輸血の依頼は日赤ではなく、県庁の災害対策本部にすることになった。

○4/17（日）20件の時間外外来に対応。指揮系統を明らかにし、伝達事項をホワイトボードに記入。DMAT窓口が竹田医師会病院に。不足物資も調達可能とのこと。

○4/18（月）地震後、通常診療開始

1) 常勤医師含めスタッフは全員出勤。非常勤医外来休診 常勤医でカバー。

2) 震災関連での入院若干名 ベッドまだあり。

3) 訪問看護先より、入院の依頼あり

4) 18日のみ外来処方日数制限したが、薬剤の納品可能となり、19日より通常処方可能

5) DMATの窓口が竹田医師会病院から阿蘇医療センターに変更（阿蘇医療センターに電気が通じた為）

6) 熊本へのルートの通行止めがいくつか解除され、公式に通れる道路が開通

7) 食料・物資・ライフライン 確保できている。

8) 院内の検査は問題無く稼働。外注の検査が停止しており、メド立たず。

9) おぐに老人保健施設はショートステイでほぼ満床

10) JMATで阿蘇温泉病院にスタッフ派遣



飲み水の確保



地震直後の公立病院の動き

○4/19 (火) 避難所巡り (医師・看護師・事務)

通常診療終了後、下記避難所をを巡回

- ・小国町 小国ドーム、下城小学校
- ・南小国町 役場ホール、希望が丘小学校

○4/21 (木) 避難所巡り (医師・看護師・事務)

通常診療終了後、下記避難所をを巡回

- ・小国町 小国ドーム、北里小学校、下城小学校、蓬莱保育園
- ・南小国町 役場ホール

※くまもと健康支援研究所スタッフさんが一緒に巡回し、体操をしてもらった。

○4/23 (金) JMATで阿蘇温泉病院にスタッフ派遣



地震関連利用者数

(平成28年5月15日現在)

公立病院		おぐに老人保健施設	
地震関連受診総数	85名	ショートステイ受入れ	7名
入院	8名	避難世帯受入れ	3世帯
救急車受入れ	6台		

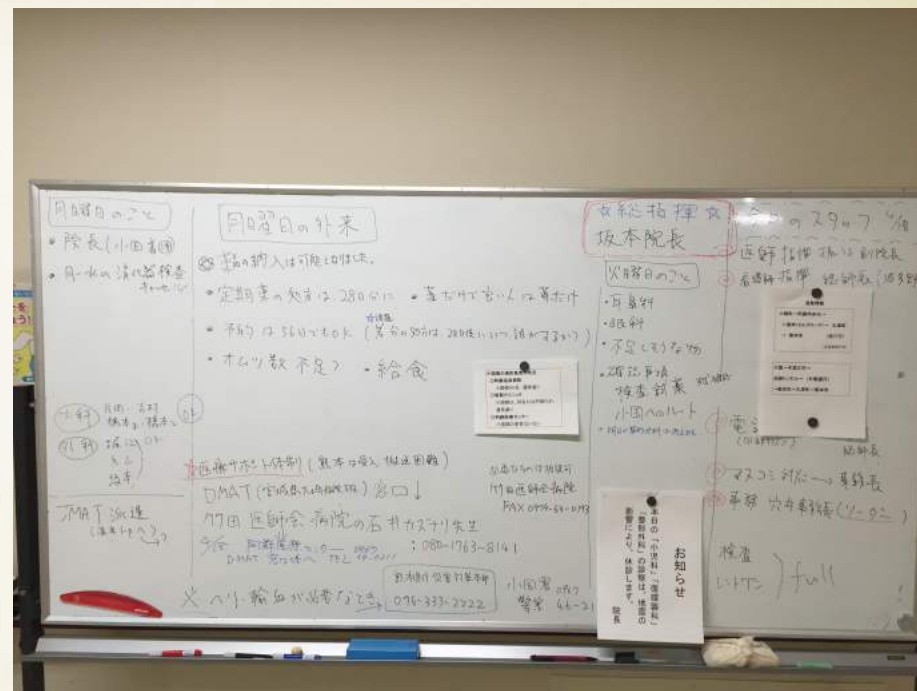


問題点 (未評価)

全体の指揮系統

病棟

外来



次の災害への備え・地震後にみなおしたこと

避難所が開く様な災害時には、ホワイトボードで情報共有をする様になった。

災害時の備蓄の在庫確認

まだ地震時の業務振り返りができておらず、地震前後で変わったことはほとんどない。

病棟の改善点 避難経路・非常時病棟業務

外来の改善点 人手不足の際のレギュレーション

事務の改善点 連絡の手段の整備

災害時の公立病院の課題

医師が小国にいないときの対応

スタッフが少ない時間帯で、患者さんを避難させなければならない事になったら、どうするか？

病院が崩落の危機に陥った時どうするか。

どこに避難させるか

物資（薬・食料・おむつなど）が熊本から入ってこない時の別ルート確保

非常時職員出勤の条件の設定

小国の問題として共有しておきたい事

公立病院は現在単身赴任で来られている医師がほとんどであり、今回のように週末に地震が起きた場合は対応できなくなってしまう。

かといってこういうことがあるから、週末は小国にいてくださいとなれば、赴任する医師はいなくなる。

小国郷出身の医師がいないという問題点を小国郷の問題として考えなければならない。



熊本地震 前震・本震を
経験して

平成28年4月14日21時26分

平成28年4月16日1時25分

医療法人社団大徳会リハセンターみどりの里

- ① 大徳会理事長・大阿蘇病院院長・施設長と
電話 連絡
- ② 緊急マニュアルに添って
地震対策本部の立ち上げ
- ③ 事務次長を本部長とし
各部署の管理者召集
- ④ 職員の安否確認
- ⑤ 各部署で対応開始



1 介護支援センター

- 電話で安否確認後福祉課へ連絡
- 高齢者二人暮らし・独居老人宅訪問
- 避難の必要性や遠方の家族への連絡
- 居宅までの道路状況確認。
- 危険個所は包括や建設課に連絡



2 ヘルパーステーション

- 電話にて安否確認
- 落下物による怪我の確認と環境整備による安全の確保
- 身体状況の確認と不安解消の声かけ
- 訪問前に電話で道路状況の確認後サービスの提供
- 自宅裏庭の地滑りを発見。ケアマネに連絡し避難先を確保してもらった。



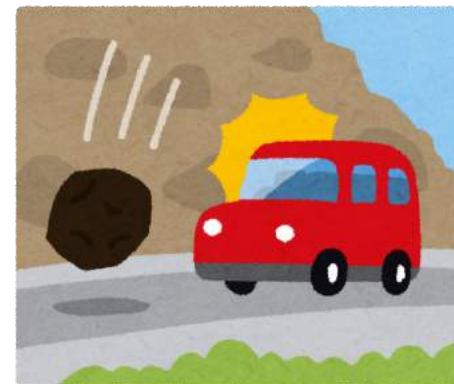
3 訪問看護

- 高齢者独居世帯への安否確認
- 在宅酸素療法の世帯に停電の有無確認
- 各居室の落下物などを確認
- 避難者様の内服薬の手配
- 安否確認
- 避難所への訪問
- 訪問ルートの確認・確保



4 デイサービスセンター

- 独居の方(当日利用予定者)の安否確認
- 送迎ルートの確認(情報収集)
- ケアマネとの連絡・連携
- 避難所への送迎
- 利用時間延長と短縮
- 南阿蘇村・益城町・西原村の被災者受け入れ



5 サービス付高齢者住宅 「朝日が丘」

- 各居室の訪問・声かけによる安否確認
- 居室環境整備
- 周囲の損傷確認
- 家族様への情報提供



6 地域密着入居者生活介護 みどりの里

- 入居者様の安全確認と居室内の確認
- 不安者様への対応(フロアーで就寝)
- ご家族様へ電話と面会時に状況説明



7 栄養課

- 調味料の落下による破損
- 食材の確保
- 断水後の濁り水
- エレベータが止まり配膳を人力で



8 施設管理課

- 施設内・外の状況確認と安全確認
- 危険個所の応急処置をする。
- 各会社へ修理・点検依頼



評価

- 備品の確保（おむつ等）ができていた。
- いつもの食事が提供できた。
- 東日本大震災後に家具を固定していた。
- 大きな被害がなかった。（職員含む）



今後の課題

- 食材について地元業者と連携の協定が必要
- 飲料水の確保(500L以上)
- 福祉避難所の場所(どの地区はどこ)
- 利用者様ごとの細かな情報
- 情報をどこに確認すれば確実？
- 消防団との連携と訓練

